

あいさつ運動の好事例

瀬戸内市立邑久小学校

(児童数670名 教職員数58名)

つながり合う「あいさつ運動」
～ 自ら考え、自ら動く子ども主体の取組 ～

アピールポイント

「あいさつで校内を盛り上げたい」という思いをもち、児童会と6年生が中心となり、自分たちで何ができるのかを考え、計画し、主体的にあいさつ運動をしている。また、活動ごとに一人一人が振り返りをし、毎回さらによいものになるよう計画をしている。

実際の様子



取組の概要

■児童生徒の実態

児童数670名の大規模校により、学校生活の中で、他学年の児童と接することがあまりない。そのため、同じ学校にいながら、他学年の児童や教員と互いに会話をする機会が少なく、つながり合いにくい現状がある。そのため、あいさつを自分から進んでしている児童が少ない。

■活動内容

毎月一週、あいさつについての週目標を設定している。その週に児童会や6年生が中心となり、あいさつ運動を計画して行っている。毎朝、登校してきた児童から校門に立って、後から登校してくる児童にあいさつをする。また、「こんにちは」のあいさつを広げるため、休み時間等にも他学年の各教室に行っあいさつをする。

■取組の参加メンバー

児童会、6年生児童、校長、教頭、生徒指導担当、6年生担任

■成果・効果

あいさつ運動後の感想では、「朝からあいさつをすると気持ちよかった」「他学年のいろんな人とあいさつができてよかった」「もっとあいさつを広げたい」等の感想が多く聞かれた。あいさつをする良さを感じた児童が多かった。また、上学年の取組が下学年に広がりつつあり、あいさつ運動に参加する児童が増えている。